

★ アジア草の根助成 書類選考通過団体（投票用紙に番号又は団体名を記入）

同じアジアの一員としてアジア諸国で地域の市民のために活動する団体を応援する助成です。

* 事業概要は各団体の応募用紙に記載していますが、誤字・脱字など一部「草の根市民基金・ぐらん」事務局で修正しています。

団体番号	助成申請団体・申請事業の概要等					
ア1	団体名	特定非営利活動法人 シニアの再チャレンジを支援する会	活動エリア	フィリピン	申請額(万円)	50
	事業名と事業概要	<p>●事業名：フィリピンに本を送る会の活動</p> <p>当活動は、現地に図書室を作り、日本の絵本をタガログ語翻訳して送る活動を通じ、学校に通えなくても、本を読む楽しさや知識を得る喜びを知ってほしいという社会性の高い事業です。しかし、フィリピン山岳地帯に建設された3つの図書館では老朽化が進んでおり、特にマガタ第2図書館の老朽化はひどく、2024年に改修工事を予定し、翌年・翌翌年に1図書館ずつの改修と、古くぼろぼろになった絵本の更新を計画します。また、現地図書館の運営を支える現地支援団体 SPM に対し、昨年ボランティアの報酬増額を行ったが、長く報酬を据え置くスタッフに対しても月1万(4名のスタッフ)の増額を実施したいと思っています。なおこの図書館の改修と共に、中心図書館であるマガタ第2図書館は、地域コミュニティセンターとしての活用、台風時の避難所としての活用、夜間は学習室として利用できる図書館へのグレードアップなども求められており、可能な事から実現を図りたいと考えます。(例えばソーラーランタンを活用した夜間学習室の設置等。)</p>				
ア2	団体名	一般社団法人精神障害当事者会ポルケ	活動エリア	日本・韓国	申請額(万円)	50
	事業名と事業概要	<p>●事業名：日韓精神障害者交流事業</p> <p>これまで、交流事業を通じて、日本と韓国における精神障害への根深い偏見や差別の問題を共通認識としてきた。両国の当事者団体によるアンチスティグマの取り組みを行うこととなっている。そのために、両国で起きているこれらの社会課題について広く社会に認識を広げるために学習会や講演会を行う必要がある。これまでは訪韓による交流が中心だったが、韓国からメンバーを招聘し、施設見学や講演などの共同企画を日韓による当事者団体が主導して展開する。また、障害者権利条約の次回審査に向けて、日本と韓国で世界的にも稀なシステムである医療保護入院制度についての課題を明らかにする。日韓の市民による相互交流を地域社会にも示し、ダイバーシティインクルージョンの機運を盛り上げ、戦後80年のタイミングに世界平和と共生社会づくりに貢献したい。</p>				

団体番号	助成申請団体・申請事業の概要等					
ア3	団体名	特定非営利活動法人ゴーシェア	活動エリア	フィリピン国 セブ島 周辺の離島村落	申請額(万円)	50
	事業名と事業概要	<p>●事業名：フィリピン最貧困離島スラムの子ども達の栄養改善に向けた食育事業 (趣旨)・フィリピン・セブ島近郊の離島地域のうち、特に貧困度が高く栄養不良状態が著しいパンダノン島村落へ向けて持続可能な栄養改善サポートプログラムを実施し、子ども達の生育環境改善を図る。</p> <p>・従前まで団体として取り組んできた村落コミュニティ内での炊き出し活動を発展させ、本事業においては、新たな取り組みとして、小学校と連携して食育授業の実施や学校内の給食メニューの補助や改善を図ることで、教育と栄養状況改善を融合させ支援活動としての質の向上を目指す。</p> <p>(概要)・当団体を通しセブ本島より栄養士と教員資格を持つスタッフを当該離島に派遣し、栄養と食育に関する教材を子ども向けと家庭向けに作成する。小学校の協力を得、作成された教材を用いて、食育の授業を行う。</p> <p>・当団体と技術協力関係にある栄養士と保健士を派遣し、その助言と監修のもと、モリンガやキャッサバ等の当該地域で入手可能かつ健康に寄与する食材を活かした持続可能な食事メニューの開発を行う。</p> <p>・現地教育機関や村議会と連携し、本事業により開発された食事メニューを学校での給食補助活動として活かし、周辺離島地域の中で最も栄養不良状態にあるパンダノン島の子ども達へ向けた栄養補助活動とする。</p> <p>・保健士の協力を得、活動実施前後の身体測定と発育調査、家庭における栄養状況調査を行い、この成果をもって保護者に動機付けや働きかけを行い、コミュニティとしての食育や衛生に関する意識の向上を目指す。</p>				